

えこあっぷ!

創刊準備0号

2003.8 No. 0

発行：滝川市 森のかがく活動センター 〒 073-8686 滝川市大町1丁目2番15号 電話 0125-23-1234 (内線 1754)

滝川市森のかがく活動センター情報誌「えこあっぷ!」創刊準備号をお届けします。

この情報誌は、「ひと」と「自然」との関係性をあらためて考え、ふるさとの自然を再発見する活動を行う「たきかわ環境フォーラム」が編集を行います。

「ひと」と「自然」とをつなぐ様々な情報の提供や、イベントのお知らせ、各地の自然環境活動の紹介などをお伝えします。

本号は創刊準備号として、たきかわ環境フォーラム代表あいさつ、メンバー紹介、職員紹介、定例勉強会などを紹介します。

代表 あいさつ

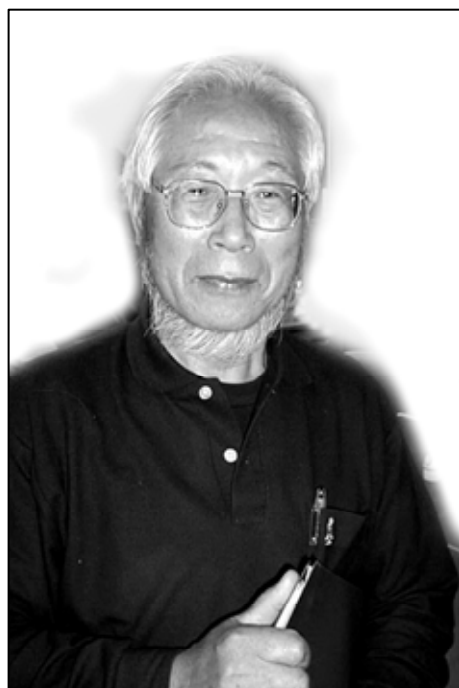
滝川市の一角、空知町(旧 北海道有林滝川林務署)に、平成16年5月に本格オープンを予定している「滝川市 森のかがく活動センター」は、もうその胎動が力強く聴こえています。

それは、その運営を行う「たきかわ環境フォーラム」の自主的な活動が、すでに始められ、私たちが住むこの自然環境や生活環境に対する長期的な展望に沿った自由な発想による討議と計画が着々と重ねられています。

その柱のひとつは、現在の自然環境や生活環境を正しく見つめるために、より多くの地域の人たちの参加により、各自の肌で体験していただくと共に、より多くの情報を交換していくことです。

そのためには、行政主導から「この指とまれ型」の民間主導に変え、参加する人々のひとり・ひとりが「参加して良かった」と思えるような積極的な活動の場にしなくてはなりません。

その新しい試みとして、地域の人々の中から各分野での専門知識や技術を持っている方々の力を借りて、活動の向上と充実感を高めるためのボランティア(サ



ポーター・支援者)の登録制度の検討がされています。

二、三活動の具体的な内容にふれさせてもらえば、この地域の自然環境の実態をひとりひとりの目と肌で感じ取ること。それは「森のかがく活動センター」を中心に、地域により多く足を運ぶこと。そこで見たもの・採取したものをよく調べること。(野外活動)この活動を通じて自然環境に対する意識を高めていくことです。

生活環境については、まず食生活をとりまく食材の生産(農作物)や、土台になる土作り、更にその食材を使った料理等を実際に体験すること、更にはより多くの人々と生活を通じた諸問題を語り合い、学習し合う交流会、情報交換も活動の大きな柱となるでしょう。

いづれにしても、この地域の自然・生活環境の改善は、私たちに課せられた最大の課題です。

将来をしっかり見すえて、新しい発想による積極的な活動を期待します。

[高橋 啓治]

高橋 啓治：(たかはし けいじ) たきかわ環境フォーラム 代表

深川市納内町出身 昭和10年1月2日生 深川農業高校・帯広畜産大学・農業高校教師と、農業畑で生き、50歳に退職。以後18年間フリーターとして悠々自適に遊山荘(ログハウス)で生活。現在、たきかわ道の駅イベントアドバイザー・環境を考える市民会議委員を務める。ボランティアとロマンに生きる男!

たきかわ環境フォーラム メンバー紹介



私の目指すもの...

車椅子の生活をしていても、私なりに何かできる事があると思ひ、この活動に参加しました。音楽を通じ自然・環境・バリアーとバリアフリー・ボランティア等を考え、発進したいと思ひます。仕事の関係上、全国を自家用車で行っているため、各地の自然環境・バリアフリー・ボランティア等、この目でしっかり見て行きたいと思ひます。1人でも多くの人たちが「森のかがく活動センター」に興味を持ち、理解を示し、参加・利用して下さる様、御願ひ致します。

[渡部 昭彦]

渡部 昭彦：(わたなべ あきひこ)

たきかわ環境フォーラム 運営委員

1946年生。北海道赤平市茂尻生。

赤平高校卒。学生時代、サックスを独学で学ぶ。

卒業後、札幌で就職したが、サックスを忘れられず、音楽の道に入るが、1978年音楽活動を休止。

2度の交通事故で、現在は車椅子の生活。

1998年ある新聞記事がきっかけで演奏活動を本格的に再開。精力的に全国各地をまわる。

演歌からジャズまでジャンルを問わず演奏。

2001年 念願がかない沖縄でボランティア演奏を行う。

2002年 札幌で行われた DPI 世界障害者大会で演奏。

北海道夕張高等養護学校評議員。

「森の音」主催

たきかわ環境フォーラムメンバー

役職	氏名	備考
代表	高橋 啓治	北の仙人
副代表	平田 剛士	木工好きライター
副代表	万代 トメ子	北の未来塾
運営委員	川原 弘嗣	環境を考える市民会議
運営委員	鈴木 亮子	はなさかおばさん
運営委員	高橋 一美	水の守人
運営委員	武田 忠義	野生動物のお医者さん
運営委員	深町 亜紀	シロウト代表

役職	氏名	備考
運営委員	山木 傑	若き農の達人
運営委員	吉澤 隆司	自然写真家
運営委員	渡部 昭彦	サックス奏者
監事	中島 和治	日本野鳥の会会員
監事	武田 和佳	子どもの遊びはおまかせ
事務局長	越後 弘	日本野鳥の会会員
事務局員	北谷 孝範	孤高のカヌーイスト
事務局員	文化振興課	

ニックネーム・シンボルマーク募集!

「森のかがく活動センター」では、施設の愛称とシンボルマークを募集します。

「人と自然の出会いの場」「ふるさと再発見」をテーマにした、
親しみやすいニックネームとシンボルマーク

応募先・〆切りなどの詳細は、次回創刊号でお知らせします。

職員紹介

はじめまして。今回ご縁あって「滝川市森のかがく活動センター」の職員となりました、北谷孝範(きたや たかのり)です。生まれは砂川です。釣り、カヌー、山菜取りと、中空知の自然の中で育ちました...とは言っても、ほぼ20年ぶりに故郷に戻ってきた私に、この滝川で「何ができるか」はわかりません。ですが、センター職員として、微力ながら懸命に務めてまいりたいと思います。

どうぞよろしくお願いいいたします。

[北谷 孝範]



《待ち人きたる ふるさとエコアップのためのキーパーソン》

卓球台の上にひじを突きながら、ふと目にした名前に驚いた。キタヤタカノリ.....って、あの北谷さん？

今年7月、「たきかわ環境フォーラム」の発足準備の会合の席だ。活動拠点となる元の林務署の建物は、玄関に真新しい「森のかがく活動センター」の看板こそ出ているが、中は改装工事前で、調度も足りない。しかしなぜだか残されていた卓球台を円卓代わりに、ペットボトルの麦茶を使い捨てコップでちびちび飲みながらの集まりだった。払い下げの古ぼけた建物に、ライオンズクラブならぬボランティアの運営委員たちが十数人。施設管理費はごく乏しく、暖房費のかさむ冬期の数カ月間は閉鎖せざるをえないという。「自然・環境情報の発信拠点」を目指すと説明されたが、この時点で具体的なプランは皆無といってよかった。誘われて参加を決めたものの、報酬もない代わりに責任感もそこそこ、という委員(つまり私)ですら、ここでいったい何ができるんだろう？ と不安を覚えずにいらなかった。



そこへ新しくセンター職員としてやってくることになったのが、北谷さんだった。彼が公募に応じていたとはまったく予想していなかった。採用者欄に名前を見つけた瞬間、北谷さんが来てくれるなんて、なんてラッキー、とうれしかった。が、次に思い直した。「ここを彼が活躍するのにふさわしい場所にできるのかな」と。

1996年秋、私は北谷さんに案内をお願いして、千歳市から苫小牧市まで、美々川をカヌーで下り、その模様をルポ記事にして週刊誌に発表した。当時、道政を揺るがせた「千歳川放水路計画」にまつわる取材だったが、美々川は、もし計画が実現すれば大破壊を免れない環境の一つである。この川を深く愛し、年に60回近くも繰り返しフネを出していたカヌーイストが、北谷さんだった。その案内ぶりはまさに「自分の庭」に行くごとくで、彼は川の美しさも厳しさも、そして繊細さも知り尽くしていた。なぜこの川を守らなくてはいけないのか、短い時間だったが、同じフネで川に行く間に明快な答えをもらった気がした。このルポ記事は高評を得て、その後、単行本になった。千歳川放水路計画が白紙撤回されるのはそれから間もなくのことだ。

彼のような優れたナチュラルリストが「森のかがく活動センター」に力を貸してくれることは、文字通り望外の喜びだ。でもそれだけでは「森のかがく活動センター」が成功するとは言えない。「ナチュラルリスト北谷孝範」を、これから私たちがどんなふうにか「利用し尽くす」か、がポイントだと思う。

「森のかがく活動センター」は「自然・環境情報の発信拠点」を目指す。だが受け手がいなければコミュニケーションは成立しない。反対に、受け手が増えてコミュニケーションが活発になればなるほど、ふるさとのエコアップは進むだろう。

北谷孝範さんはそのキーパーソンである。

[平田 剛志]

平田 剛志：(ひらた つよし)たきかわ環境フォーラム 副代表

地方紙記者を経て1991年からフリーライターに。環境問題を中心に取材・執筆を続け、著書に『北海道ワイルドライフ・リポート』(平凡社)、『エイリアン・スピーシーズ～在来生態系を脅かす移入種たち』(緑風出版)、『ルポ・日本の生物多様性』(地人書館)など。滝川市西町在住。38歳。

施設ご案内

滝川市 森のかがく活動センターは、空知川を目前に望む空知町に位置しています。

ただいま改装工事・展示物作成と公開準備作業の真っ最中！

開館に向けて大忙しです。

〒073-0034

滝川市空知町

2丁目6番31号

滝川市 森のかがく活動センター



滝川市 森のかがく活動センター 定例講座

えこあっぷ! のご案内

このコーナーでは、森のかがく活動センターの取り組み「えこあっぷ!」について連載記事を紹介すると共に、「えこあっぷ!」の考え方に基づいた、定例学習講座の案内を掲載して行きます。

参加申し込み・お問い合わせは、滝川市教育委員会 文化振興課 23-1234 (内線1754)まで。

「えこあっぷ」という言葉を初めて聞く方も多いのではないのでしょうか。

このコーナーでは、ニューズペーパーの題名である「えこあっぷ」(これ以降は一般的に使われるカタカナ書きの「エコアップ」とします)について、その考え方や事例を何回かに分けて解説したいと思います

エコアップとは、エコロジカル・アップ(ecological up)という和製英語を略したもので、「増自然」とも言います。

その意味は、自然が失われたり乏しくなった街中、農地、水辺等で、人間の工夫により、より多くの動植物が暮らせる環境を作り出し、生態学的(ecological)な多様性を向上(up)させ、自然を守るとともに、人に暮らす環境も豊かにすることです。

野鳥のための木を植える、トンボの暮らせる池を作るといった、個人の庭で出来る工夫も立派なエコアップです。

それが地域の取り組みとして広がっていけば、滝川市全体で自然の豊かさを増やすことにつながります。

さらに、郊外の林、小さな川などの自然の“かけら”を守り、広げて、つないでいけば、いろいろな野生の動植物を身近に楽しめる暮らしが出来るでしょう。例えば山の森とあちこちの林や大きな庭、公園などを街路樹や防風林でつなげば、街中にエゾリスが遊びに来ることも夢ではありません。

自然を守るとは、なにか珍しい生き物や、遠くにあるすばらしい環境を守るだけではありません。誰でも出来るちょっとした工夫も、みんなでそれを行えば、滝川市全体で自然を保護することなのです。

さて、いろいろな事例などの紹介は次回以降に...

[武田 忠義]

武田忠義：(たけだ ただよし)たきかわ環境フォーラム運営委員 「えこあっぷ!」連載記事担当。

1964年江別市生まれ。道庁でいわゆる“自然保護”の仕事をしていましたが、縁あって滝川に住んでいます。趣味は野山を歩いて生き物を眺めること。滝川には自然の宝がたくさんあります。それを多くの人と共有し、大事にして行けたらと思っています。

9月開催講座 有機農作物について

開講日：平成15年9月27日(土)
 時間：午後1時～4時
 場所：滝川市森のかがく活動センター
 講師：高橋 啓治
 定員：なし
 参加費：無料

テーマ：スローフードと食材
 農学に精通した講師が、有機農作物についてお話しします。家庭の目から見た“安全な食材としての農作物”とは...
 これからの食材のしるべを聞くチャンス!

10月開催講座 バードテーブル作成

開講日：平成15年10月11日(土)
 時間：午前10時～12時
 場所：滝川市森のかがく活動センター
 講師：越後 弘
 定員：30名
 参加費：1,500円(材料費・餌代・保険料含)

冬も間近...
 自宅の庭に餌台を置いて、秋冬の鳥たちを呼んでみませんか? うまく鳥たちを庭に迎えるコツが聞けるかもしれません。鳥たちのための“エサ”付です。

11月開催講座 たきかわ環境フォーラム・パネルディスカッション

開講日：平成15年11月9日(日)
 時間：午後1時～3時
 場所：美術自然史館
 講師：吉沢 隆司
 定員：なし
 参加費：無料

テーマ：森のかがく活動センターをどう活用するか...
 一般参加を募集します。たきかわ環境フォーラムメンバーと一緒に、人と自然環境との関わりについて話しませんか?

2003年8月31日発行

発行者：滝川市森のかがく活動センター

編集：たきかわ環境フォーラム

〒073-8686 滝川市大町1丁目2番15号 電話 0125-23-1234 (内線1754)